

# おうとう

登録 発芽 展葉 開花始 満開 落花 収穫盛  
4.1 4.24 4.23 4.29 5.11 6.24

平年値 (東横市東横) 北村山農業技術普及課調査

散布時期	適用病害虫名	散布薬剤名及び散布濃度 (薬液100ℓ当たり)		農業使用基準		10a当たり 散布量	注意事項 (収穫前日数 総使用回数) を表す	散布日 (月/日)	使用薬剤	使用 濃度
				収穫前 使用時期	総使用 回数					
休眠期 (3月末迄)	ハダニ 重点防除 カイガラムシ類 (コスカシバ) (越冬病害虫)	1. ハーベストオイル 2. アブロードフロアブル	50倍(2ℓ) 1,000倍(100cc)	発芽前 7日前まで	- 2回以内	400ℓ	1. 天気の良い温暖な日を選び薬剤をむらのないように散布するとともに、薬液のかけやすい樹形に整理する。(手散布による補助散布) 2. コスカシバ対策 フェニックスフロアブル500倍(開花前まで1回)を樹幹散布する。 3. 樹脂細菌病対策 石灰硫黄合剤10倍(発芽前)を樹幹散布する。	/		
開花1日前 (風船状)	灰星病 幼果菌核病 炭そ病 ハマキムシ類	1. トレノックスフロアブル 2. パイオマックスDF	500倍(200cc) 2,000倍(50g)	21日前まで 前日まで	5回以内 -	400ℓ	1. この回以降、殺虫剤解禁までは訪花昆虫の影響を少なくするため早朝散布に努め、果群に直接薬液がからないようにする。	/		
咲開五分咲	星病 幼果菌核病 せん孔病 灰星病	1. トップジンM水和剤	1,500倍(66.6g)	14日前まで	3回以内	600ℓ	1. 山手や開花期不順天候時に散布する。 2. 展着剤は加用しない。	/		
満開期 (八分咲)	重点 灰星病 幼果菌核病 褐色せん孔病 ハマキムシ類	1. ファンタジスタ顆粒水和剤 2. パイオマックスDF	3,000倍(33.3g) 2,000倍(50g)	前日まで 前日まで	3回以内 -	600ℓ		/		
満開10日後	防除 灰星病 炭そ病 褐色せん孔病 (コアオカシミカメ)	1. スミレックス水和剤 2. オーツサイド水和剤80	1,500倍(66.6g) 800倍(125g)	14日前まで 3日前まで	3回以内 5回以内	600ℓ	1. 花ぐされや発病果は伝染源になるので、見つけ次第摘みとり理設する。 2. コアオカシミカメによる被害が心配される場合、ウララDF2,000倍(前日まで、2回以内)を加用する。ただしポリネーション(交配用ミツバチ)回収後とする。	/		
咲開5月中～ 下旬	防除 コスカシバ	スカシバコンL	10a当たり40～100本を設置		広域的に設置する		1. コスカシバの発生が多い園では設置する。	/		
<b>この回以降の散布は殺虫剤解禁後とする</b>										
咲開 殺虫剤解禁後	重点防除 シヨウジョウバエ類 オウトウハマダラミバエ (褐色せん孔病)	1. アグロスリン水和剤*1	1,000倍(100g)	3日前まで	2回以内	600ℓ	1. カメシにも効果が高いので被害が心配される園では散布する。 2. 前回散布より間隔がある場合や、褐色せん孔病の発生が心配される園ではオーツサイド水和剤800倍(3日前まで、5回以内)を加用する。	/		
5月下旬	重点防除 ハダニ カイガラムシ類 カメシ類 ハマキムシ類	1. スコア顆粒水和剤 2. スプラサイド水和剤 3. ダニコングフロアブル	2,000倍(50g) 2,000倍(50g) 2,000倍(50cc)	前日まで 7日前まで 前日まで	3回以内 3回以内 1回	600ℓ	1. この回以降収穫を終えるまで展着剤を加用しない。 2. 早生種や紅きり混植園ではスプラサイド水和剤に替えてモスピラン顆粒水溶液 2,000倍(前日まで、1回)を散布する。 3. 雨よけ被覆後はハダニが多くなりやすいので、草刈り3～4日後にいてい散布する。	/		
6月上旬	重点防除 灰星病 カメシ類 シヨウジョウバエ類	1. バレード15フロアブル 2. テルスターフロアブル*1	2,000倍(50cc) 3,000倍(33.3cc)	前日まで 前日まで	2回以内 2回以内	500ℓ		/		
6月中旬	重点防除 灰星病 炭そ病 黒斑病 褐色せん孔病 オウトウシヨウジョウバエ	1. ナリアWDG 2. エクシレルSE	2,000倍(50g) 2,500倍(40cc)	前日まで 前日まで	3回以内 3回以内	500ℓ	1. ナリアWDGはル レクチエの果実や、ピオナーの葉に葉害を生ずることがあるので飛散させない。 2. 収穫の終わった早生品種にも散布すること。	/		
6月下旬	重点防除 灰星病・黒斑病 オウトウシヨウジョウバエ	1. オンリーワンフロアブル 2. アーデントフロアブル*1	2,000倍(50cc) 2,000倍(50cc)	前日まで 前日まで	3回以内 3回以内	500ℓ		/		
晩生種中心 7月上旬	重点防除 灰星病・黒斑病 炭そ病 褐色せん孔病 オウトウシヨウジョウバエ	1. ナリアWDG 2. ダントツ水溶液	2,000倍(50g) 2,000倍(50g)	前日まで 前日まで	3回以内 2回以内	500ℓ	1. この回以降、収穫が終わらない場合、オウトウシヨウジョウバエ対策として、ディアナWDG 1万倍(前日まで、2回以内)を散布する。	/		
収穫直後	重点防除 褐色せん孔病 ハマキムシ類 ウメシロカイガラムシ アメリカシロヒトリ ハダニ類	1. オキシラン水和剤 2. ダイアジノン水和剤34 3. カネマイトフロアブル	600倍(166.6g) 1,000倍(100g) 1,000倍(100cc)	収穫後～落葉期まで 14日前まで 7日前まで	3回以内 2回以内 1回	600ℓ	1. 収穫の終わっていないおうとう、もみに飛散させない。	/		
咲開 7月中～下旬	重点防除 せん孔病	1. オキシラン水和剤	600倍(166.6g)	収穫後～落葉期まで	3回以内	600ℓ	1. 降雨が続くまたは、散布間隔が空きすぎる場合は散布する。	/		
8月上 ～中旬	重点防除 せん孔病 カイガラムシ類幼虫 (ハダニ類)	1. オキシラン水和剤 2. アブロードフロアブル	600倍(166.6g) 1,000倍(100cc)	収穫後～落葉期まで 7日前まで	3回以内 2回以内	600ℓ	1. 他作日に飛散させない。 2. アブロードフロアブルの代わりにスプラサイド水和剤1,500倍(収穫7日前まで、3回以内)を使用しても良い。△化幼虫時に的確に散布するとともに散布ムラが出ないように注意する。 3. ハダニ類が見られる場合はコロマイト乳剤1,000倍(7日前まで、1回)を加用散布する。コロマイト水和剤はおうとう、もみに登録がない。	/		
咲開 9月上～中旬	重点防除 せん孔病 灰星病 ウメシロカイガラムシ	1. トップジンM水和剤 2. ダイアジノン水和剤34	1,500倍(66.6g) 1,000倍(100g)	14日前まで 14日前まで	3回以内 2回以内	600ℓ		/		
咲開 9月中 ～10月中旬	重点防除 褐色せん孔病	1. Zボルドー 2. クレフノン	500倍(200g) 100倍(1kg)	- -	- -	600ℓ	1. 天候不順時に散布する。 2. Zボルドーには葉害防止のため必ずクレフノン100倍を加用する。 3. 他樹種への飛散に注意する。	/		
落葉後	重点防除 越冬病害虫 樹脂細菌病	1. 石灰硫黄合剤 又は、 I Cボルドー66D	10倍(10ℓ) 40倍(2.5kg)	発芽前 -	- -	400ℓ 400ℓ	1. 野そ被害が心配される園では食害忌避としてフジワン粒剤200g/樹(根首前、2回以内)を使用する。	/		

収穫前使用時期で「前日」とは24時間前である。  
 オーツサイド水和剤80、オキシラン水和剤などキャプタンを含む剤の総使用回数は合計で5回以内である。  
 オキシラン水和剤など有機銅を含む農薬の総使用回数は合計で3回以内である。  
 ※1 合成ピレスロイド剤は毒害・魚毒が強いので、桑園・養魚池、河川などの近くでは絶対に使用しない。